東アジア研究学域　入学前課題講評

課題①は、2018 年 12 月 20 日から 2019 年 1 月 9 日までの新聞から、中国（台湾・香港・マカオを含む）および朝鮮半島（韓国・北朝鮮）にかかわる記事をすべて探し出し、それらの記事の掲載日と見出しの一覧を作成する、というものでした。

21 世紀に入り、東アジア各国の情勢は刻一刻と変化しています。東アジア研究学域は、中国古典文学や思想、東洋史、現代中国・台湾・韓国・北朝鮮など、中国や朝鮮半島を中心とする東アジア地域に関わる様々な事柄について幅広く学ぶことができる学域です。課題①では、一定期間に掲載されたすべての記事の一覧を作成し、自分が関心を持つ事柄に限定せず、政治・経済・社会・文化など、今まさに東アジア地域で起こっている事柄について情報を収集し、幅広く関心をもってもらうことを意図しました。

調査対象となる新聞は、各自が自宅や図書館などで読むことのできる新聞 1 紙としましたが、選択された新聞は全国紙から各地の地方紙まで多様なものでした。今回の課題で調査対象とした期間中において、中国に関しては米国との間の貿易摩擦問題、また韓国に関しては日韓の間で火器管制レーダー照射問題と徴用工訴訟に関する問題が持ち上がっていたこともあり、これらに関する記事が数多く掲載されました。提出物では、多くの生徒が中国と朝鮮半島に関する記事を丁寧に探し出し、数ページにわたるリストを作成していました。一方で、一覧の記事数がかなり少ないものも散見されました。同じ新聞を選んだ場合でも記事数が少ないということは、見出しに見落としがあったということです。東アジア研究学域では、今後も様々な調査で新聞記事を利用することが出てきます。日頃から、新聞・テレビ・インターネットなどのニュース報道を通じて、最新の東アジア情勢に対して常に関心を向けるよう努力を続けてください。

課題②では、見出し一覧の記事を全て読んだ上で、東アジア各国の関係について、自分の考えを 1200 字程度で書いてもらう、というものでした。出題意図としては、見出しだけではなく、記事の内容をしっかり読んで理解し、さらにその内容について深く考えてもらうことが目的でした。

提出物の多くは、米中間の貿易摩擦や日韓間の政治・外交問題（レーダー照射、徴用工訴訟など）について論じたものでした。米中貿易摩擦に関しては、国際経済に及ぼす影響を懸念する意見のほか、科学技術分野における中国の発展ぶりをあらためて認識したという意見がみられました。また、日韓間の政治・外交問題に関しては、朝鮮半島の南北関係および米朝関係の動向と関連づけながら、それらの諸問題をどうすれば解決できるのか、他人事ではなく自分の問題として真剣に考察したものが見られました。

今回の課題を通じて、東アジアの地域情勢が複雑化し、緊迫の度合いが高まっていることがよく認識できたと思います。すでに入学が決まり、比較的自由時間の多いこの時期に、自分の関心のある東アジア関連の本を多数読んで、東アジア学域で何を学び、それをどう活かしていけばよいのかについて、考えてみてください。